



「シンプル」→「伝わる・わかる」→「つながる」→「安心」

学校だより

令和 4年 6月 1日
東京都立羽村特別支援学校
校長 外山 裕介

ありがとうございました

5月21日、28日に行われた、小学部、中学部の「体育授業発表会」では、たくさんの保護者の皆様に御参観いただきありがとうございました。感染予防対策の様々な御協力に感謝いたします。

小学部の発表では、ぎりぎりまで降雨対策を練ったため、変更のアナウンスのすぐ後に、一転して予定通りの進行を決断した場面もありました。保護者の皆様には不安な思いをなされた方もいらっしゃると思います。この場を借りてお詫びいたします。この日の関東は土砂降りになる地区も多く、ネットニュースでは以下のような記事も掲載されていました。

東京都福生市の横田基地も、公式 Twitter で「空挺降下が天候により中止」と報告。意気消沈しているというセス技術軍曹の写真を添えて、「天気はしょうがないね。また明日！」とコメントを紹介した。

このような天候状況の中で、全種目を発表できたことはとても幸運だったと感じています。みんな満足気な表情で、さぞかし大きな達成感であったことでしょう。

中学部の発表は、強い日差しの中、熱中症も心配されましたが、青年期を迎えた生徒たちの力強い発表を、最後まで無事に行うことができました。授業の発表会ではありませんが、体育祭を意識し、生徒がそれぞれ役割をもって応援団や装飾にあたっていました。特に最後の学年対抗リレーではまだあどけなさ残る1年生から、たくましくなった3年生までが白熱したレースを繰り広げました。最後まで頑張る姿が印象的でした。

高等部では、5月に開催された障害者スポーツ大会に球技部とサッカー部が出場し、どちらも準優勝という結果を残すことができました。まだまだ、全体の参加数は少ないのですが、日頃の練習の成果を発揮するとても良い経験ができました。

「発表の場」が育てるもの

「発表」は、児童・生徒にとってわかりやすい目標です。小学部低学年にとっては「見ていてくれる」「受け止めてくれる」「認められている」という嬉しい気持ち、高学年から中学部にかけては、「上手にできた」「うまくいった」という満足感や「みんなとやれた」という楽しい気持ち、そして中学部の最上級生や高等部になってくると、「練習の成果が発揮できた」「精一杯頑張ることができた」「うまく表現することが

(右上に続く)

できた」「失敗したけど精一杯頑張った」といった大きな達成感や努力の過程に対する満足感となってきます。小さな自信が芽生え、経験を積み重ねることによって、大きな自信へと変わっていくのです。

緊張からの解放

発表の時はドキドキします。部活動における大会の日などはそのドキドキもひとしおでしょう。それは予測ができるからです。経験を重ねるごとに、出来栄を予測する力が付いてきます。

4月の学校だよりに書いたように、基本的には「失敗しても許される」「何度もやり直しができる」「これならできそう」と、児童・生徒がこのように思えることが大切です。しかし、大きな行事の発表や競技の場は、やり直しができません。大きな緊張が伴います。発表が終わり、この緊張から解放されると、結果に関わらずほっとします。結果が良ければ大喜びします。この満足感や達成感が「次もまた挑戦したい」というモチベーションになります。

児童・生徒のこのような気持ち育てるためには、発表を見守る保護者の皆様の力が必要です。以前とは違う形での発表方法が、これからも続きますが、次の機会もよろしく願っています。

感染症対策が残すもの

実は今回の体育発表会の運営は、児童・生徒にも、保護者の皆様にとっても良かった点があると自負しています。長時間待機する必要がなく、集中しやすい。短時間なので、炎天下であっても熱中症等のリスクが少なくなる。観客が入れ替わるので発表が見やすい。

今後、感染症が収まり、皆さんが一堂に集まれるようになって、これらの参観システムについて、必要な部分を取り入れ、児童・生徒にとって、過度な負担をかけず、必要な緊張感を与えるような、より効果的な学習活動にしていこうと考えます。

今後とも、保護者の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

学校だよりはHPにもアップされています。

将来的に学校だよりのオンライン配布の可能性も考え、スマートフォンでも読めるような文章を2段組みといたしました。

感想等ございましたら、連絡帳等を通してお聞かせください。